Seifunankai Gakuen

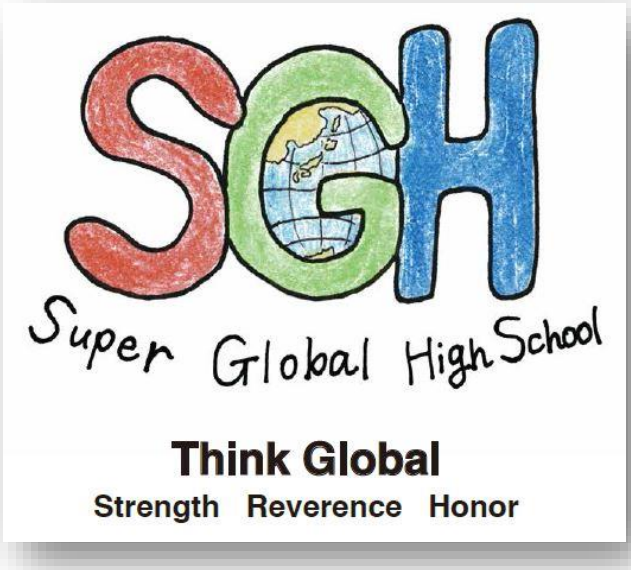
SEIFUNANKAI GAKUEN

清風南海高等学校

令和元年度

SGH 中間発表会

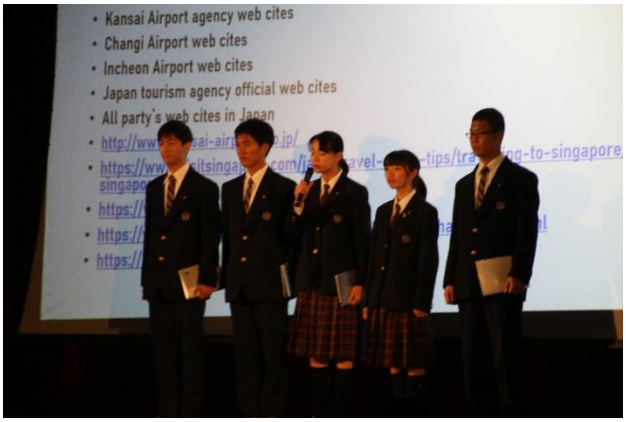
〈資料〉



令和 2 年（2020 年）2 月 22 日

－目次－

	ページ
ご挨拶	1
Ⅰ　本校の SGH 事業	
１．本校 SGH 構想	2
２．SGH 事業の内容	3
３．シナリオ・プランニング（SP）について	4～5
Ⅱ　報告（今年度）	
１．一年生	6～13
①STEP ゼミ(基礎)　Economic（経済的分野）	
②STEP ゼミ(基礎)　Technological（科学技術的分野）	
③Global English（グローバル・イングリッシュ）	
④講演会・特別授業	
⑤Field Work（フィールドワーク）、その他	
２．　二年生	14～27
①STEP ゼミ　Political（政治学的分野）	
②STEP ゼミ　Societal（社会学的分野）	
③STEP ゼミ　Economic（経済的分野）	
④STEP ゼミ　Technological（科学技術的分野）	
⑤シナリオ・プランニング（SP）	
⑥Global English（グローバル・イングリッシュ）	
⑦講演会・特別授業、その他	
Ⅲ　今後の事業展開について	
１．国内外のフィールドワーク（3 月）の予定	28
２．事業展開　-3 年間の流れ-	30
３．運営指導委員一覧・連携先一覧	31



〈国際シンポジウム〉

ご挨拶

清風南海高等学校
SGH プロジェクトチーム

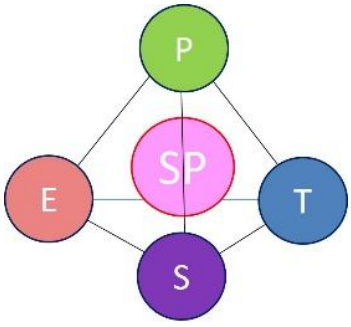
本日は、清風南海高等学校スーパー グローバル ハイスクール（SGH）令和元年度中間発表会にお越しいただき、ありがとうございます。

本校では、社会の急速な「グローバル化」の進行に対応し、将来様々な分野で活躍することができるグローバルリーダー育成をめざして、平成 27 年度より高等学校に「グローバルコース」を設置致しました。それと同時に、現代社会の抱える課題に関心を持ち、深い知識と教養を備え、論理的・批判的思考力、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付ける、質の高いカリキュラムを開発・実践する高等学校として、文部科学省から「SGH」にも指定されました。これまでの 5 年間、色々と試行錯誤を重ねながらも、何とか新しい教育活動の道筋をつけることができてきたのではないかと自負しております。

現在、SGH としての活動は終えつつありますが、今後も「ワールド ワイド ラーニング（WWL)」の連携校として、同様の活動を継続してまいります。これまで培ってきたノウハウを生かし、さらに充実した課題探究活動を行っていきたいと考えております。毎年 11 月に実施してきました国際シンポジウムや 3 月に行う春期フィールドワークなど、海外校との交流活動や大学や企業、研究機関等との連携活動も継続的に実施いたします。生徒たち一人ひとりに、これまで以上に幅広い課題探究活動の場を提供したいと考えております。

今回の中間発表会は、1 年生が中心となって運営に当たります。午前中はプレゼン発表の部となり、1 年生による「STEP ゼミ（基礎)」の活動報告と 2 年生による「シナリオ・プランニング」の発表を行います。午後からは、1 年生と 2 年生全員によるポスター発表を実施し、活動内容の説明を行うとともに、皆様からのご質問にお答えし、同時にアドバイスをいただく機会としたいと考えております。ぜひ、ポスター発表もご覧いただき、生徒たちに色々と刺激を与えてやっていただけましたら幸いに存じます。

今後とも、本校の取り組みにつきまして、各方面関係者の皆様の多大なるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



Ⅰ　本校の SGH 事業

１．本校 SGH 構想

①本校 SGH 構想の概要

○「未来を読み解く力」と「世界に発信する力」を身につけるための教育システムの開発を目的とする。
○生徒による「シナリオ・プランニング（SP)」を用いた未来予測を研究開発のテーマとし、学習教材としての体系化を図る。

②「シナリオ・プランニング（SP)」の本校 SGH 構想における位置づけ

○「地球規模の視野を持って世界のあり得べき未来図を描き、社会をより良い方向に導いていく人材」と定義したグローバル・リーダー育成をめざし、ビジネス手法「シナリオ・プランニング（SP)」を学習教材として体系化する。
○テーマを「SP を用いて未来のエネルギー事情を考える」とし、年に２回中間発表会を行う。また、春期フィールドワーク訪問先の高校生や大学生、近隣のＳＧＨ校・アソシエイト校等を招待し、国際シンポジウムを開催する
○教科教育の枠を超えた知識や分析力が必要となるので、Societal, Technological, Economic, Political の 4 つのゼミ（STEP ゼミ）を開講して専門的な知識や考え方等を習得する。
○国内外のフィールドワークを積極的に行い、国内外の高校・大学・企業・地方公共団体等と協働してシナリオ・プランニング（SP）を行う。
○『STEP ゼミ』・『GE』（グローバル・イングリッシュ）・『フィールドワーク』などの取り組みを統合し、「生徒によるシナリオ・プランニング（SP）を用いた未来予測」を実施し、論文作成を行うとともに、学習教材としての体系化と普及・ネットワークの構築を図る。

③「シナリオ・プランニング（SP)」

【概略】
　シナリオ・プランニングとは、大手エネルギー会社ロイヤル・ダッチ・シェル社が用い、世界の多くの企業がその予測を参考にしていることで有名な未来予測の手法である。これは単なる未来の予想ではなく、未来の多様なリスクに対応するために、複数の「起こりうる未来のシナリオ」を論理的に創り上げることにその特徴がある。そして各シナリオに対応した戦略や対策を考えることで、新たな変化に対処することができる。
【ステップ】
　本校ではＳＰを後述の８つのステップに分けて行う。
生徒にとってＳＰを理解することが難しいので、
フレームワークがあるほうが理解しやすい。
授業では各ステップで説明文付きのパワーポイントを
作成し、生徒に配布した。生徒はいつでもファイルをみて、
ＳＰの内容を理解したり、やらなければならないことを確認できるようにした。

２．SGH 事業の内容

STEP ゼミ・講演会・特別授業・GE・フィールドワーク・その他

本校の課題研究テーマは「シナリオ・プランニング（SP）を用いて未来のエネルギー事情を考える」であり、研究開発の主軸は SP である。SP を行うことで、論理性・課題発見能力を高め、主体的に活躍できる人材を育成することを目指している。しかし、本来 SP は高度なビジネス手法であり、その手順は高校生には難解である。また SP を行うために必要な、未来に影響する因子を列挙するという作業のためには、広い視野と多角的な思考法を身につけねばならない。そこで以下のように、年次進行で SGH 事業の研究開発を行う。

①一年次

次年度以降の SP 演習に耐えうる生徒の素養を養うことを主たる目標とする。

【STEP ゼミ】　Societal, Technological, Economic, Political のそれぞれのゼミを各 7～8 回ずつ実施し、生徒はそれぞれの考え方の基礎を学ぶとともに、次年度以降のゼミ専攻の参考とする。なお、それぞれのゼミにおいて専門家を招き、講義や演習の指導を受ける。

【GE】通常の英語の授業と連携を取りながら、姉妹校との Skype 授業や、英語によるディスカッションやプレゼンテーション等を計 7～8 回行う。なお、20 名弱のクラスに対し、日本人教員 1 名と外国人教員 1 名によるチームティーチングで行う。

【国内・海外フィールドワークの実施】　長期休暇を利用して、関東方面、マレーシア・シンガポール、フィリピンへの研修旅行を行い、現地の企業・大学・高校等と協働して探究活動を行う。

②二年次

【STEP ゼミ】　各生徒が Societal, Technological, Economic, Political の 4 つのゼミから 1 つを選択し、一年次の学習内容を深化して学ぶ。学習内容を活用できるよう、これら 4 つの専門分野を学んだ生徒が混在するよう、シナリオ・プランニング（SP）のグループを作る。

【SP】　「未来のエネルギー事情を考える」という本校 SGH の設定テーマに沿って、授業のテーマを設定し、活動はグループで行う。前期では、授業の最初にＳＰの方法を解説する。その後、チームがテーマに沿ったトピックを選び、シナリオを作成するための２つの軸を選ぶ。後期ではシナリオを完成させる。

【国内・海外フィールドワークの実施】　SP の成果を国内外に発信するとともに、フィールドワークの実施を通じて、現地の企業・大学・高校等との協働 SP を目指して準備を進める。

【GE】　多数の生徒が一年次の終わりに海外のフィールドワークに参加しており、英語によるコミュニケーションの重要性を認識していること踏まえ、国際シンポジウムでの活用も視野にきめ細かな指導を行い、総合的な英語力の向上を目指す。

③三年次

【SP】　２年次における「生徒によるシナリオ・プランニング（SP）を用いた未来予測」の成果を論文に作り上げるとともに、学習教材としての体系化と普及・ネットワークの構築を図る。また、英語化を可能な限り行うことにより海外も含めた成果の発信を積極的に行う。

３．シナリオ・プランニング（SP）について

◎「シナリオ・プランニング（SP）」８つのステップ

《Step１：テーマの設定》

テーマの設定は教員で行い、幅広いトピックがあがるように考える。今回は「エネルギー」とした。

《Step２：トピックの設定》

ブレインストーミングを行い、テーマに関係するトピックを考えさせる。幅広く考えられるように間接的にテーマと関係があればトピックとして認める。

トピックのタイトルは「××年後○○」とし、××年後の社会状況を表すようなものにする。また、主体者を明確にし、誰のためのシナリオを作成するかを考える。

《Step３：情報収集》

トピックに関係する情報を集める。生徒は基礎知識が乏しいことが多く、書籍やネットなどを利用して学習する。この情報収集は次のドライビング・フォースを列挙するのに必要となる。

《Step４：ドライビング・フォース（DF）の特定》

トピックの未来に大きな変化をもたらす可能性のある因子をドライビング・フォースという。情報収集した中から因子をできるだけ多く挙げる。それをＳＴＥＰに分類し、足りないものを補っていく。その後ＳＷＯＴ分析を行い、外部環境要因であるＯ(機会)とＴ(脅威)を抽出する。

《Step５：IUマトリクスへ適応》

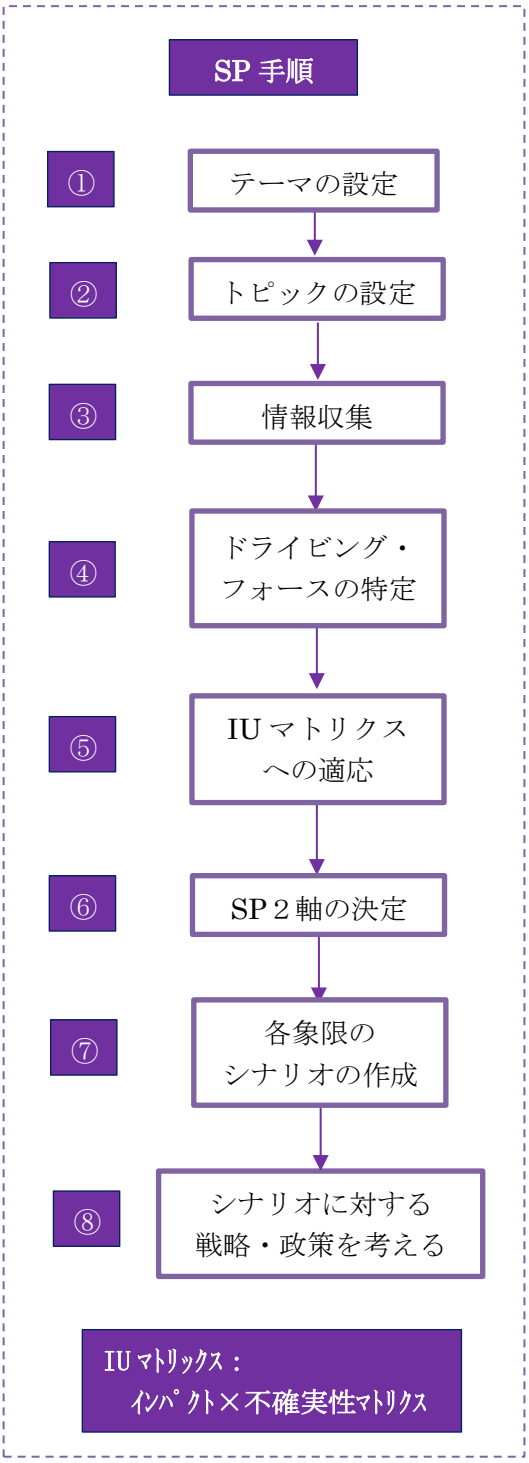
Step４で抽出したドライビング・フォースを横軸にUncertainty(因子実現の不確実性)、縦軸にImpact(因子実現のインパクト)を取ったマトリクスに当てはめる。左上の因子はインパクトが大きく、不確実性が低い(=因子実現がほぼ読める)ものをベース因子と呼び、すべてのシナリオの土台となる。右上の因子はインパクトが大きいが、不確実性が高いものとなり、重要因子となる。

《Step６：SP２軸の決定》

Step５の重要因子から２つを選び、ＳＰマトリクスを作成する。Step７以降のためには、この２つの要素は互いに干渉し合わないものにしておく必要がある。

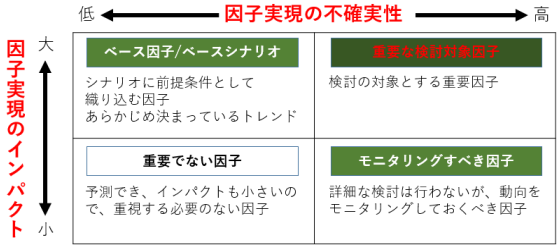
《Step７：各象限のシナリオの作成》

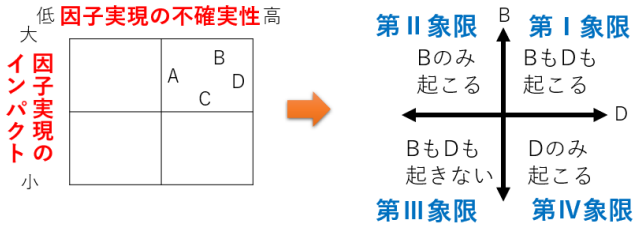
Step６で挙げた２軸をもとに、「ともに起こる」「どちらかが起こる」「ともに起こらない」４つのシナリオができる。「ともに起こらない」シナリオをベースシナリオといい、すべてのシナリオはここから始まる。シナリオを作成する時はシステムダイヤグラムを使い、様々な事象を付箋に書き、起こる順番に並び替えていく。その中で分岐点を探し、軸に選んだ重要因子が起こるシナリオを作成する。



《Step８：シナリオに対する戦略・政策を考える》

それぞれのシナリオに対して、主体者がどのような戦略・政策・対応をするかを考える。各シナリオにおいて、企業・政府・個人など主体者が変われば、戦略や政策、対応などは異なる。適切な答えを導くことで、シナリオを活かすことにつながる。





【期待される効果】

期待される効果は以下の５点である。

① 未来への視線を持つ

若く、未来の開けている高校生とはいえ、今日の彼らの視野は「イマ・ココ」に囚われがちである。未来予測を研究課題とすることで、未来へ目を向けることを習慣化させることができる。

② 自分の考えの相対化

ＳＰとは、自分一人で考えていてはバイアスに左右されて偏ってしまいがちな未来の展望（シナリオ）を、手順を踏み、他者と協働することで、出来る限り論理的整合性のあるものに昇華する（プランニング）ための手法である。これを学ぶことで、生徒各自が自分の考えの持つ偏向性を見つめ直すことができる。

③ 多様性を受け入れられるようになる

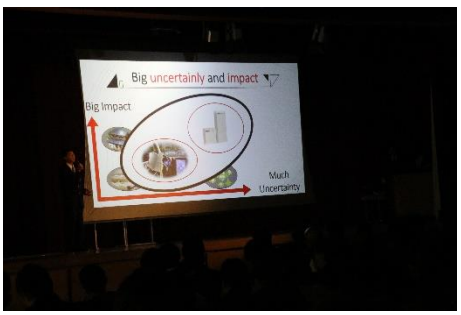
ＳＰは本来、大人数でフラットに、ブレインストーミングの形で行うものである。違う視点からの発言が不可欠であり、自然と他者の多様な意見に対して敬意を持つことができる。

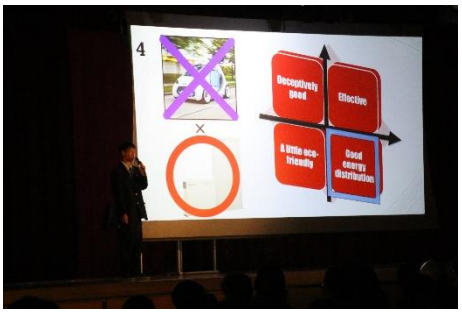
④知識の体系化（問題発見能力と課題解決力の育成）

「探究型学習」の多くは現在起こっている課題に対してどのような解決方法があるかを考えることが中心で、いわゆる「課題解決力」の育成が中心である。しかし、問題が起こる前に事前に対応策を考えておくことは昨今の危機管理に通じるところがある。Step４～６はドライビング・フォースを様々に分類をしたり、評価する。この過程で、あるイベントが起こった時の影響を自ら考えることになり、これによって問題発見能力を養うことが可能である。また、シナリオを作るだけでは、単に物事の記述をするだけで、何ら課題解決力につながらない。シナリオの主体者、たとえば政府や企業といった立場から、どのような戦略や政策を行えばいいかを考えることで課題解決力の養うことにつながる。

⑤論理的思考力の育成

未来のシナリオを作成するとき、気をつけることは単なる空想であってはならないということである。現在入手可能な資料をもとに論理的に起こりうる可能性を考えていくことが必要である。必ず、根拠となる資料を示すことで説得力のあるシナリオとなる。因果関係をはっきりさせながら考えることで論理的思考力を養うことができる。





１．一年生

後期も引き続きの STEP ゼミを行いました。

① １年 STEP ゼミ　Societal（社会学的分野）

【ねらい】

◎文化・家族・医療・都市・職業に関する社会の諸問題を知り、仮説をたて、インタビュー・アンケート調査を実施し、そこから得たデータをもとに、仮説を検証し、自分なりに現代社会やこれからの社会を解釈・予測して、新たな情報として発信する。

・現代社会の諸問題を共有する。・理論仮説をデータで検証するという思考方法を実践する。

・インタビューの基本を学び、実践する。・インタビューを通し、学校外の人とも意思疎通する。

・アンケート実施の基本を学び、実践する。・データを、表計算ソフトを用いて統計処理する。

・一次情報を作成する。

【研究タイトル】

・文化への関心をひきだすものー家庭環境と読書・美術鑑賞の関係

・高校生大学生のライフスタイルと恋愛・結婚観ー熱心さによりグループ化される若者たち

・死生観と医療行為―生命を身近に感じる体験と安楽死・臓器移植・出生前診断への意思の相関

・人口が減少する都市の二・三世代同居と地域コミュニティの必要性―大阪府高石市の子育てを例に

・高校生の職業選択意識と就職活動生の意識―ジェンダーをふまえて

【生徒の感想】

・私たちは「クールジャパン」から着想される、アニメや漫画を好む中高生と日本文化や美術に興味を持つ中高生の違いについて研究を行いました。 研究を行うにあたって、アンケートを取り、分析をしました。 アンケートを分析して関連性を見出すというのは、容易ではなく、様々な可能性と観点から物事を見ることが必要になり、今後の人生に役立つであろう今までにない経験をすることができました。 また、文化というのは解釈が人によって異なる概念である為、定義づけが難しく、大変苦労しました。 結果の見えない研究は心身ともに気疲れするもので、何度も悩み、苦しい思いをしましたが、今後の自分の自信になる貴重な財産になったと深く思います。

【講評】

ゼミメンバーたちの、「家の蔵書数、読み聞かせ、幼少期の本を買い与える頻度といった家庭環境のうち、中高生の読書習慣に影響を与えているものはなにか」、「祖父母と接する頻度と安楽死への考え方には相関があるか」、「『近所の人と子育てをする』というのは、親にとって現実的な子育てプランなのか」といった課題は、社会に関心をむけ、メディア情報を読みとり、さらに、自分たちの生活感覚を信じたり疑ったりしながら、仮説をたて、検証するという、丹念な思考の手順を通して発見された。彼らの忍耐強い思考と、社会に貢献しうる課題を発見した底力には驚かされた。

また、ゼミメンバーは、アンケートやインタビューを通して、学校外の人からの助けを積極的にえた。正木美術館の学芸員さん、堺市立榎小学校六年生や教員の皆さん、高石市役所の住宅課・子育て支援課の皆さん、京都大学、奈良女子大学、大阪大学、神戸大学の学生さんたち、医療関係職の方である。他者の知見に敬意をもち、問題を共有し、他者から学びとったことをもとに自身で思考していくことで、社会の現象を独自の視点で解釈し、問題解決策を試みる、真摯な姿勢が見られた。

② 1年 STEP ゼミ　Technological（科学技術的分野）

【意義・ねらい】

日常の生活を豊かにしてきた「もの・サービス」から、それを支える科学技術について知見を広げていく活動を行った。そこから、その科学技術が、現代社会における課題に対してどのようにアプローチすることができるかを、さまざまな観点から考察し、具体的・実践的な解決方法の提案する素地を養うことを目的としている。

【授業の流れ】

基礎	1回目	「科学技術」について	ゼミ	4回目	班決め
	2回目	既存の技術の分析と応用例		5～10回	事例研究
	3回目	発表		11～14回	課題探求
				15回	発表

【生徒の感想】

・地球環境について考えましたが、なかなか良い案が生まれず、苦労しました。しかし、最終的にはチームで意見を出し合い、まとめることができ、形に持っていくことが出来ました。
・何をすればいいのか初めは分からなかったけれども、南海電鉄に見学に行ったり、課題を貰ったりしているうちに環境をよくできるようかアイテムを少しずつ思いついていって、楽しかった。
・高校の理科の範囲を大幅に超えた分野の研究や調査をするので、大学受験よりも企業に就職した後によく使うであろう知識を身につけることができた。
・何かを研究してそれを人の前で発表することはとても難しく、そのような発表の練習を高校生のうちからできるので、社会に出てから有利になると思う。
・フィールドワークで南海の千代田工場の見学や産総研の見学など普段滅多に入ることができないような場所に入って、実際に見て学ぶことができた。
・考えた案が白紙になることもあって苦労しましたが、その度に、先生のアドバイスも頂きつつ、チームでさらに熟考を重ねた結果、より良いアイデアを出すことができました。

【講評】

「地球環境」と「まちづくり」という２つの課題を設け、Technology という観点から取り組んだ。Technology は我々の生活の至るところに見られ、それなくしては生活できないほど身近なものである。しかし、いざ研究課題として取り組むと、専門的な知識が必要になったり、慎重で深い考察を加えねばならなかったりと、様々な困難に直面することが多かった。そうであるにも関わらず、生徒たちは、彼らなりの柔軟な視点をもって、前向きに課題に取り組んでくれたように思う。今年度からは、本校にとって必要不可欠な南海電鉄との連携学習という初の試みもあり、今以上の知的好奇心・探究心をもって、課題に取り組んでいってもらいたい。

③ 1年 STEP ゼミ　Economic（経済学的分野）

【意義・ねらい】

・社会的課題、グローバルイシューという観点から経済を考える。

・業界研究、企業研究を通して企業活動や技術の動向を知る。

・日経ストックリーグの参加を通して世界と日本の経済の動きを理解する。

→株価変動の背後にある「経済・社会の動き」に関心を持ち、自分たちの生活や社会の変化と経済の関係を知る。

【授業の流れ】

前半に引き続き、レポートを完成させた。レポートは12月から書き始め、冬休みも活用した。

基礎	1回目	発表する入賞レポートを決定	ゼミ	7回目	テーマの発表
	2回目	発表の準備		8回目	企業の洗い出し
	3回目	発表(1班5分)		9~11回目	スクリーニング作業
ゼミ	4回目	チーム編成・テーマの検討		12～14回目	レポート作成
	5・6回目	テーマ検討		15回目	発表

【生徒の作品】

外国人×Technology

銘柄コード	企業名	購入金額(円)	構成比(%)
7751	キャノン	394191	7.9
9433	KDDI	394191	7.9
6752	パナソニック	352697	7.1
6758	ソニー	352697	7.1
6902	デンソー	352697	7.1
7267	ホンダ	311203	6.2
6503	三菱電機	311203	6.2
9434	ソフトバンク	311203	6.2
9432	NTT	311203	6.2
9708	帝国ホテル	290456	5.8
9437	NTTドコモ	269710	5.4
7201	日産自動車	269710	5.4
7259	アイシン精機	269710	5.4
6971	京セラ	269710	5.4
4755	楽天	269710	5.4
9984	ソフトバンクグループ	269710	5.4

再生可能エネルギーを身近に

証券コード	銘柄名	主要市場	10/1株価	購入株数	購入額(円)	構成比:(%)
1801	大成建設	東証第一部	4200	64	268800	5.5
1802	大林組	東証第一部	1084	249	269916	5.6
1925	大和ハウス工業	東証第一部	3545	76	269420	5.5
1942	関電工	東証第一部	969	279	270351	5.6
4004	昭和電工	東証第一部	2845	95	270275	5.6
4063	信越化学工業	東証第一部	11630	23	267490	5.5
4204	積水化学工業	東証第一部	1693	160	270880	5.6
4739	伊藤忠テクノソリューションズ	東証第一部	2895	93	269235	5.5
5801	古河電気工業	東証第一部	2595	104	269880	5.6
6302	住友重機械工業	東証第一部	3155	86	271330	5.6
6448	ブラザー工業	東証第一部	1992	136	270912	5.6
6504	富士電機	東証第一部	3310	82	271420	5.6
6641	日新電機	東証第一部	1320	205	270600	5.6
6752	パナソニック	東証第一部	886.5	305	270382.5	5.6
8001	伊藤忠商事	東証第一部	2248	120	269760	5.5
8002	丸紅	東証第一部	718.4	376	270118.4	5.6
8591	オリックス	東証第一部	1618.5	167	270289.5	5.6
9984	ソフトバンクグループ	東証第一部	4280	63	269640	5.5
	合計				4860699.4	100.2

中学生が商店街を救う⁉

商店街の新しいカタチ

PLASTIC REDUCTION

会社名	株式コード	区分	CSR	財務指標	構成比(%)
クレハ	4023	ア	9	40	1
三井ガス化学	4182	ア	10	36	3
ハリマ化成	4410	ア	11	34	4
三洋化成工業	4471	アイ	13.5	33	2
大日本印刷株式会社（DNP）	7912	ア	10	33	5
三井化学	4183	ア	9	33	6
国際紙パルプ商事	9274	イ	9	41	2
帝人	3401	イ	12	39	1
豊田通商	8015	イウ	9	38	3
コーセー	4922	イ	10	36	3
Cathay Pacific	7532	イ	9	36	7
大成建設	1801	イ	11	35	6
石塚硝子	5024	イ	10	34	8
三洋化成工業	4471	アイ	13.5	33	5
JT	2914	ウ	22.5	46	1
良品計画	7453	ウ	11	41	3
住友化学	4005	ウ	16	39	2
帝人	3401	ウ	12	39	4
平和堂	8276	ウ	10	39	5
豊田通商	8015	イウ	9	38	6

saiko のおんがく

銘柄（コード）	株式市場	購入額（円）	割合（%）
ヤマハ（7951）	東証1部	620000	12.4
スクウェア・エニックス（9684）	東証1部	615000	12.3
任天堂（7974）	東証１部	590000	11.8
アミューズ（4301）	東証1部	550000	11
オリコン（4800）	東証JQS	550000	11
セガサミホールディングス（6460）	東証1部	530000	10.6
ALSOK（2331）	東証1部	520000	10.4
松竹	東証1部	505000	10.1
ソフトバンク（9984）	東証1部	500000	10
		4980000	99.6

ード	企業名	予定投資額	初日の終値	投資した株数	投資額
8233	高島屋	310,000	1,309	236	308,924
1925	大和ハウス工業	320,000	3,400	94	319,600
2702	日本マクドナルド	310,000	5,360	57	305,520
5741	UACJ	310,000	2,557	121	309,397
8801	三井不動産	320,000	2,685	119	319,515
9143	SGホールディングス	310,000	2,637	117	308,529
9433	KDDI	310,000	3,191	97	309,527
9503	関西電力	310,000	1,264	245	309,680
9936	王将フードサービス	310,000	6,570	47	308,790
1419	タマホーム	320,000	1,763	181	319,103
7184	富山第一銀行	310,000	344	901	309,944
3612	ワールド	310,000	2,873	107	307,411
8306	三菱UFJ	310,000	588	527	309,613
9044	南海電気鉄道	310,000	3,010	102	307,020
9434	ソフトバンク	310,000	1,469	211	309,959
	ポートフォリオの運用結果				4,662,532
	日経平均		23430.7		

【生徒の感想】

・パワーポイントにいくつか行き届いていないところがあったのが惜しい。投票で選ばれたプラスチック班の発表は、パワーポイントのアニメーションが派手すぎず、分かりやすかった。また、太陽光発電班は自分たちがテーマについての理解を深めようとする自主性が見受けられた。株は今まで手を出したことがなく、どことなく近寄りがたいイメージを持っていたが、ストックリーグに参加したことで、より興味を持った。

・再生可能エネルギーや株について深く知れたし、チームで1つのことを頑張ることで協調性の大切さも学びました。レポートに伝えたいことをまとめて、書くことも難しかったですが楽しかったです。来年も参加する機会があれば、参加したいと思います。

④1 年 STEP ゼミ　Political（政治学的分野）

【意義・ねらい】

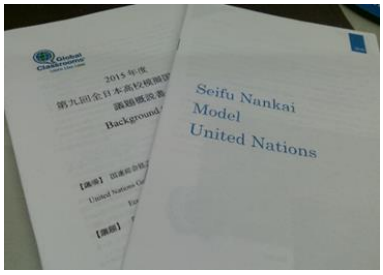
・政治的諸課題について考えることで、政治感覚を身につける。
・社会における利害調整に必要なことや合意形成の仕方について学ぶ。
・摸擬国連のルールを学ぶことで、学外の大会参加を目指す。

本ゼミでは、摸擬国連会議を行い、政治的諸課題について考え、社会における利害調整に必要なことや合意形成の仕方について学ぶことを目標にしている。摸擬国連を行う上で、まず必要なことは議題についての正確な知識を持つことである。その上で自国の政策を考え、他国の意見を聞き、できるだけ多くの国が納得できる形で議題に対する解決策をまとめることになる。

今回は、「安全保障理事会の議会席拡大と衡平配分および関連事項」を議題として会議を行った。スペインが提出したＤＲ（決議案）を各国が検討し、賛成多数で議決されることになった。

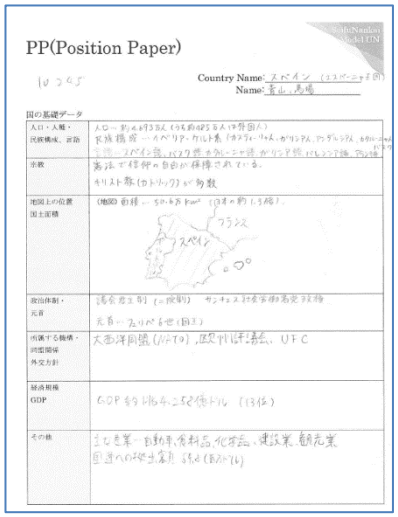
【授業の流れ】

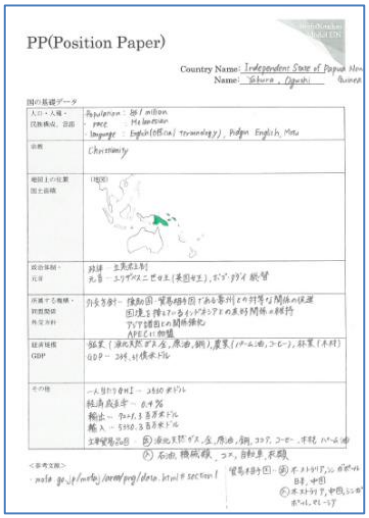
1 回目	議題発表　担当国決定
2 回目	Position Paper　作成
3 回目	Policy Paper　作成
4 回目	会議
5 回目	会議の反省　中間発表準備



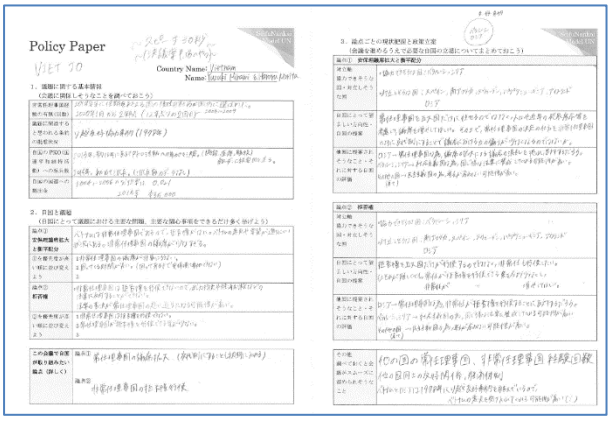
【生徒の作品】

Position Paper
スペイン（左）・
パプアニューギニア（右）





ベトナムの Policy Paper


Policy Paper

Country Name: Vietnam

投票の結果

Iceland	yes
Iran	yes
Sweden	yes
Spain	yes
Papua New Guinea	yes
Viet-Nam	abstention
Belarus	yes
South Africa	no
Russian Federation	yes

スペインのＤＲ（決議案）

１：常任理事国は拡大せず非常任理事国 10 か国拡大することを提案する。議席の配分は既存のものを含めて以下のとおりである：アフリカから 6 カ国、アジア・オセアニアから 5 カ国、ラテンアメリカ・カリブ地域から 4 カ国西欧・北欧から 3 カ国、東欧から 2 カ国。
２：拒否権の行使をラザリ案にのっとり、国際の平和と安全の維持に関する問題に限定することを推奨する。
３：拒否権を行使する際、慎重な判断を行うことを強く推奨する。

【生徒の感想】

・大和会議での反省を生かして積極的に他国への交渉を行うことができました。 次の東大寺会議ではこれを生かして自国の利益がきちんと反映されるような立ち回りをしていきたいと思います。
・今回は西大和学園での大和会議を先に経験していたこともあり、比較的先頭に立って会議を進めていけたのではないのかと思います。ですが次回からは周りの子も慣れてくると思うので、油断せずに頑張っていきたいです。
・事前学習が足りず何もできなかった。次回からはもっと知識を増やして臨もうと思う。
・西大和の模擬国連と比べて、どうしても事前の準備が足りず現実的に不可能な政策を提示している国が多かったように感じた。また、国数が少なく、P5 など敵対しやすい国が少なかったので過半数の票を確保するのが容易だった。

【講評】

《良かった点》

・全員が摸擬国連のルールを学びながら積極的に会議に参加し、非公式会議の場では多くの生徒が意欲的に発言していた。自らの発言が会議を作る、ということを学んでくれたと思う。
・会議後も摸擬国連に対する関心を持ち続ける者が多く、2 月に行われる東大寺学園の摸擬国連大会に本ゼミから 8 名が参加することになった。

《反省点》

・19 名のゼミ生による 9 か国の会議であったため、意見に偏りがあり、議論が思っていたほど深まらなかった。今後は準備の時間にもう少し余裕を持たせ、1 人 1 か国を担当するようにしていきたい。

⑤ Scenario Planning 講座

【意義・ねらい】

① 高２から始まるシナリオ・プランニングの基礎を学び、スムーズに授業が行えるようにする。

【授業の概要】

① オリジナルのテキストを作成し、シナリオ・プランニングの理解と簡単な演習を５回行った。

② １チーム６名とし、議論しやすくする。

③ 練習として「10 年後のコンビニ」「20 年後の清風南海高校」のどちらかとテーマにシナリオを作成。

【授業計画】

１回目	シナリオ・プランニング(以下 SP)とは。本校が SP を取り入れた理由。身につけたい力は。SP の手順。環境分析とドライビング・フォース。STEP 分析の練習。
２回目	環境分析とドライビング・フォース。SWOT 分析の練習。練習として２つテーマに関係するドライビング・フォースの列挙。ドライビング・フォースの根拠となる資料を探す。
３回目	環境分析とドライビング・フォース。２つのテーマに関してでたドライビング・フォースを SWOT 分析で分類。インパクトと不確実性の説明。２つのテーマに関するドライビング・フォースの評価。
４回目	２つの重要な因子の抽出。シナリオの作成。
５回目	シナリオの発表

シナリオ・プランニングは複雑で簡単に理解できるものではないので、解説付きのテキストを作成し、途中に練習問題を挟んで理解が進むようにした。講義のあと、練習問題という、普通教科と同じ手順を踏むことで、ＳＰを理解しやすく工夫した。軸となる重要な因子は外部環境に限るのだが、この判断は難しく、発表のシナリオでも内部環境が軸となっているものがあった。しかし、５回の授業で作成したシナリオは、資料を調べながら作られたもので、短期間のわりに理解が進んでいたように思えた。以下は２つテーマにおける２つの重要因子をいくつか列挙したものである。

10 年後のコンビニ	ドラッグストアの進化×コンビニ無人化 ドローン技術とサービス進化×食料廃棄の減少 食品の冷凍技術とサービスの発展×営業時間の短縮(社会的風潮)
20 年後の清風南海	ＡＩの導入×日本の海外からの留学生への補助拡大

【生徒の感想】

・自分たちと同じドラッグストアというところから見ても不確実性を作るものが違っていたりすることが面白かった。

・他の班のドライビングフォースで冷凍産業や昆虫食など、私の班では全く出なかった話を聞けた。シナリオプランニングは未来の外的要因を考えるのが難しい。軸をとるときにどうしても内部のことに目が向きがちになる。もしかすると、興味のあるテーマだともっと奥深く調べようと思うかもしれない。

・ドライビングフォースを考えている班、またアマゾンなどのＧＡＦＡ，ドローンにもふれている班があった。個人的な感想としては、軸の不確実性の大小を決めるのが難しかったと思う。軸のつもりがシナリオだったりしたので、その判断が大切だと思う。

⑥1 年 Field Work（フィールドワーク）、その他

１．留学生と交流し文化比較、意見交換をする。

日　時：２０１９年１０月２４日（木）１４：３０～１６：３０
場　所：大阪大学　豊中キャンパス
参加者：高校１年　グローバルコース生（２６名）
テーマ：「海外の（多くの）国にあるが、日本と海外ではいろいろと事情が異なるもの」
内　容：①グループ（4 名か 5 名）に留学生（1 名）というグループ分けで、アイスブレイクの時間をとる。時間が経つと班を移動し、留学生全員と話すようにする。
②各班で事前学習をした内容を基にディスカッションを行う。
③上記②を基に、総括として各班が報告、意見の共有をする。

【講評】

どの生徒も留学生と積極的にコミュニケーションをとることができていた。普段あまり接することがない南アジアやヨーロッパの留学生と話し合う機会が持てた事は貴重な経験になったと思われる。日本と海外の文化の違いを知ることで、海外に対しての興味を育むと同時に、これまでとは違った視点から自国の文化を見ることができるようになったのではないかと思われる。また、希望者は留学生の所属する研究室を見学させて頂き、大学の持つアカデミックな雰囲気に触れることができた。

第 3 回高校模擬国連大谷大会

日　時：２０１９年１１月１６日（土）・１７日（日）

場　所：大谷中学高等学校（京都）

参加者：2 年生 6 名

テーマ：「命のための水（Water for Life）」

内　容：一日目

各国大使が作成したポスターを使って、発表を行う。

二日目

総会が開かれ、決議案に対して討論や修正が行われたのちに、最終投票が行われた。

【講評】

どの生徒も他校の初めてで合う生徒と緊張することなく、ディスカッションを行い、意見を出し合っていた。短い時間ではあったが、水について調べることにより、かなり深い考察を行うことができたのではないかと思う。また、発表の場においても、発表の回数を重ねるごとにより工夫が凝らされていることがわかり、とても興味深い発表となっていた。今回は模擬国連を行うための知識を深めるという形式であったが、実際の模擬国連にも挑戦していってもらいたい。

３．第 5 回西大和摸擬国連大会

日　時：２０１９年１２月２２日（日）

場　所：白鳳短期大学

参加者：1 年生 5 名　2 年生 4 名

テーマ：「安全保障理事会の議会席拡大と衡平配分および関連事項」

内　容：約 150 名の参加者をＡ議場・Ｂ議場に分け、全日本高校模擬国連大会の議事進行に則って会議が行われた。

【講評】

初心者・経験者とも会議の中でどのような役割を果たせるかを模索しながら、積極的に行動していた。他校生のリーダーシップや英語力に舌を巻く場面もあり、少なからず良い刺激を受けている様子であった。会議後は、全員が次の大会参加に向けて肯定的な意見を述べていた。

2020 年 2 月に開催される東大寺学園摸擬国連大会に 12 名が参加することになっている。

２．二年生

STEP ゼミは各生徒が 4 分野より 1 つを選択して学び、SP に向けての活動を行いました。

① 2 年 STEP ゼミ　Societal（社会学的分野）

【意義・ねらい】

社会や人間そのものに対する考察を深める訓練を行う。本年度は、全体の進行を SP 重視に切り替えたため、後半のゼミ活動は 2 回しかとれなかった。まとまった時間を確保出来ないため、より実践的な取組をすることを重視し、Economic ゼミと協力しながら、ビジネスプランコンテストやキャリア甲子園への出場を推奨した。斬新なアイディアの創出（発散）とエビデンスの収集による実現可能性の確立（収束）という形で思考の運用を体感できたようである。キャリア甲子園はＰＢＬ(project Based Learning)の実際的な大会として多くの参加校があり緊張感を持って取り組めると考えられる。

また、キャリア甲子園では実際の企業から現状に即したアクチュアルな課題が提示されており、少し未来を対象としているためシナリオプランニング（ＳＰ）を実施する際にも効果があると思われる。

【授業の流れ】

7 回目	探究活動の基礎的な手法についての振り返り
8 回目	日本政策金融公庫の担当者さまから、作成したビジネスプランへの講評をいただいた

【講評】

社会学という領域の曖昧な学問を教えるにあたり、曖昧さ故の評価基準の不明瞭さを回避するため、外部コンテストへの参加を試みた。結果として審査結果が客観的な第三者によって与えられることになり生徒にとっては刺激になったと思われる。

また、未来を予測してのビジネスプランの創出はＳＰや統計資料の扱いを鍛えるにも適切であったと考える。昨年に引き続き準決勝大会に 7 チームが残り、東京に行くことになった。これは全国でも類を見ない実績であり、後輩達の励みにもなるものであると考えられる。その多くが他のゼミとの混成チームであり、また、グローバルコース以外の生徒との混成チームも増えている。学校として、主体性を育てるための活動としてグローバルコースが設立されたが、このコースを起点とした影響が学校全体に広がっていったことは嬉しい流れである。なお、本資料が配付される時には準決勝の結果も出ていることと思われるが、関東の学校との交流が持てた点でも良かったのではないかと評価している。

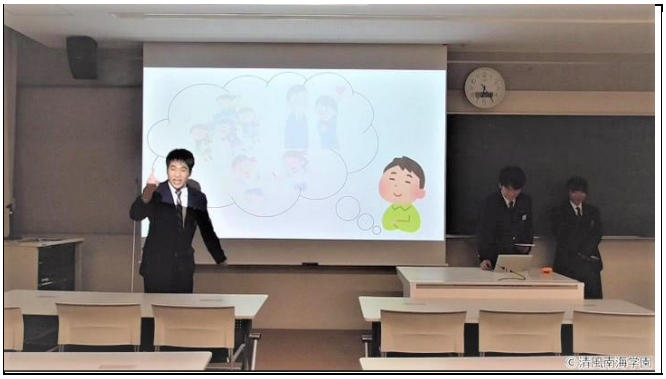
先述のように、本学年では SP を主軸に据え、比重を大きく傾けて活動してきた。これは、「グローバルコースの活動の負担が大きい」「学業との兼ね合いが難しい」といった例年の反省点への対応策であった。ゼミの活動は、選択を伴うがゆえに、比重が重くなりがちである。これを制限することで、SP の進行をスムーズに行うことができた。生徒もクオリティに一定の満足を得ることができたようであるし、卒論の完成も例年よりは早くなりそうである。

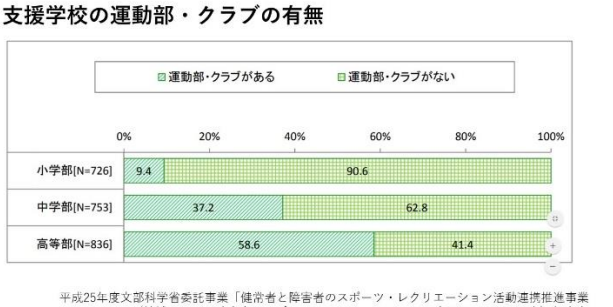
一方で、少ないゼミ活動を呼び水にしただけの外部コンテストで、非常に優秀な実績を残してくれたわけであるが、これらはひとえに、生徒達の能力の高さに起因するものだと考える。これは、五年間の SGH の活動の中で実感したことでもあるが、本校生の素質は全国の高校生と比較しても卓越している。探究型の学習はどうしても大学や企業の研究をモデルとし、目標を高く定めがちであるが、それらは相応の

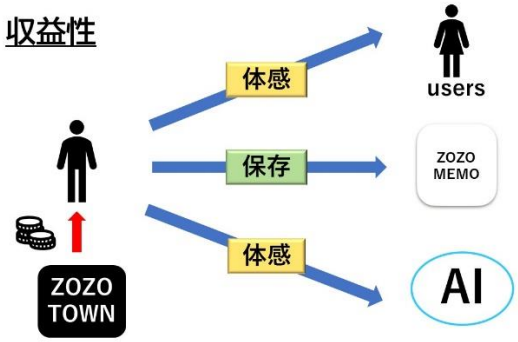
歳になってから身につければ良いのではないだろうか。本業たる学問とのバランスを保ち、他の高校生より頭一つ抜きん出て、その後の大学や社会での弾みにする、そういったレベルでの活動を、このグローバル 4 期生は体現してくれていたように思う。

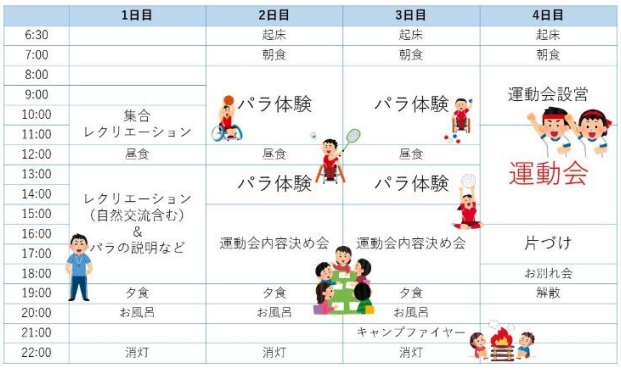
【生徒作品・成果物】

「キャリア甲子園」応募スライド及びリハーサルの状況









	1日目	2日目	3日目	4日目
6:30		起床	起床	起床
7:00		朝食	朝食	朝食
8:00				
9:00		パラ体験	パラ体験	運動会設営
10:00	集合			
11:00	レクリエーション			
12:00	昼食	昼食	昼食	
13:00		パラ体験	パラ体験	運動会
14:00	レクリエーション			
15:00	（自然交流含む）			
16:00	&	運動会内容決め会	運動会内容決め会	片づけ
17:00	パラの説明など			
18:00				お別れ会
19:00	夕食	夕食	夕食	解散
20:00	お風呂	お風呂	お風呂	
21:00			キャンプファイヤー	
22:00	消灯	消灯	消灯	

② 2年STEPゼミ　Technological（科学技術的分野）

【意義・ねらい】

現在の世界が抱える環境問題について幅広い知見を身につける。特に生態系とエネルギーに関する問題は世界が早期に解決しなければならない。そこで、生態系に関する問題では外来生物や水質保全について、エネルギーに関する問題では化石燃料に代わるクリーンなエネルギーについて学ぶことにした。環境問題を科学的・技術的な視点から理解を深めることで、10～20年後に起こりうる未来を予測する。その際、それぞれの技術が持つ現時点での限界についても考えることで、環境保全やエネルギー生産について自ら課題を発見し、解決するための最善策を提案できるようにする。

【授業の流れ】

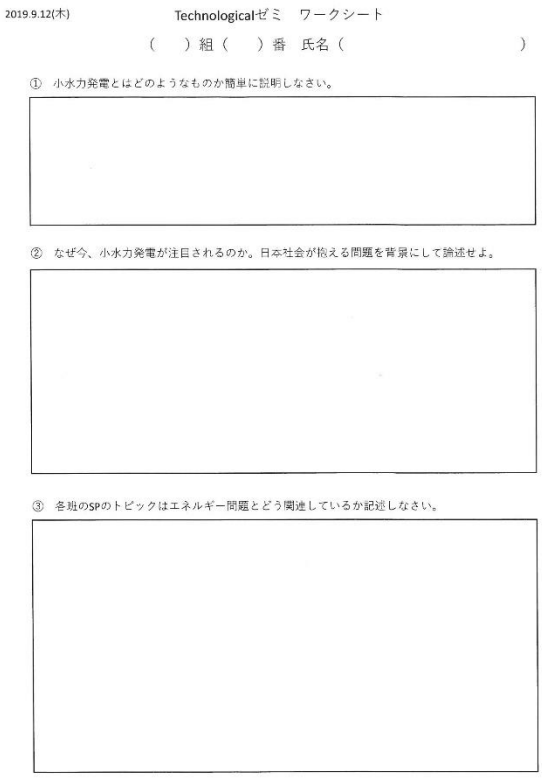
7回目	小水力発電の現状と問題点について
8回目	改めて日本の電力問題について考える

【取り組んだ活動】

次世代のエネルギーとして、太陽光発電と地熱発電について前半で学習してきた。後半では、さらにそれらの知見を広げ、考察する取り組みをした。7回目では、日本で実用化に向けた研究開発が行われている小水力発電について調べた。生徒にワークシートを配布し自由記述をさせた。設問は、①小水力発電とはどのようなものか簡単に説明しなさい、②なぜ今、小水力発電が注目されるのか。日本が抱える問題を背景に論述せよ、③各班のSPのトピックはエネルギー問題とどう関連しているか記述しなさい、の3つとした。小水力発電とは用水路や小河川など利用して発電する方法である。大規模なダム建設を必要とせず、環境への負荷も少ないのだが、このことを知らない生徒も多かった。日本の国土事情を考えると適した発電方法かもしれない。8回目では、日本の原子力発電について改めて議論を深めてみた。扱いにくい内容であり、難しい問題であるが避けて通ることのできない問題でもある。設問は、①福島の原発事故がもし起こっていなければ、日本の原発問題はどうなっていたと思うか、②海外から見た日本の原発事故について、海外の報道を比較せよ、③資源の少ない日本の電力問題をどのように解決していくべきか、の3つとした。日本の問題を世界の視野に立って客観的に見ることはまだ難しいようであった。しかし、今後生徒たちが海外で活躍するようななったとき、世界における日本の存在を必ず意識することになる。その際には、自分の意見として自国良さと問題点を冷静な視点から議論できることを期待している。

このゼミの最後に全員でディスカッションをした。海外の貧困地域でのボランティア活動に興味を持っている生徒が多い。しかし、現在の日本社会でも格差が広がっており貧困が問題になっている。今後は、日本の貧困に対するボランティア活動も重要になるかもしれないことを認識した上で、ボランティア活動の意義や目的などについて議論した。身近すぎるがゆえに答えにくい内容もあったようだが、様々な意見を交わすことができた。また、生徒が司会をしてくれたこと、様々な意見をまとめ整理してくれたことは、生徒たちの大きな成長として実感することができた。このゼミを通じて学んだことを、今後のグローバル活動はもちろん、大学生さらには社会人になっても振り返ってほしい。純粋な気持ちで真剣に取り組んだことは必ず自分の原動力となるからである。

【生徒の感想】



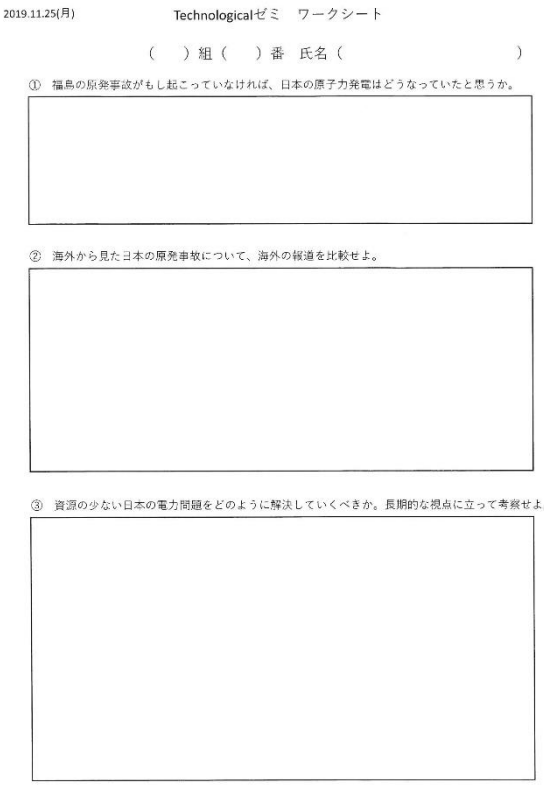
2019.9.12(木)　Technologicalゼミ　ワークシート

（　）組（　）番　氏名（　）

① 小水力発電とはどのようなものか簡単に説明しなさい。

② なぜ今、小水力発電が注目されるのか。日本社会が抱える問題を背景にして論述せよ。

③ 各班のSPのトピックはエネルギー問題とどう関連しているか記述しなさい。



2019.11.25(月)　Technologicalゼミ　ワークシート

（　）組（　）番　氏名（　）

① 福島の原発事故がもし起こっていなければ、日本の原子力発電はどうなっていたと思うか。

② 海外から見た日本の原発事故について、海外の報道を比較せよ。

③ 資源の少ない日本の電力問題をどのように解決していくべきか。長期的な視点に立って考察せよ。

・わたしは文系でテクノロジカルゼミを選びましたが高１までの理科でついていくことができました。
・テクノロジカルゼミでは、主にエネルギーを取り扱い、具体的には、エネルギーについてインターネットで調べ、エネルギーの観点から今後の日本社会がどのようになっていくかを考えました。これは、シナリオプランニングにも通ずる経験であったのでグローバル活動に非常に役立ったと思います。
・日本の現在の発電状況を理解した上で、全員で学会に向けての準備をしたりなどをしました。 基本的に生徒の自主的な行動を尊重して下さっているので、自分たちの好きなようにのびのびとでき満足しています。
・太陽光発電などいろいろな発電を自分たちで調べたりそれについて考えたりしましたが、なかなか積極的に外部の大会に参加できずに終わってしまいました。テクノロジカルゼミで身についた知識は少しでも国際シンポジウムの SP に活かせればと思っています。

【講評】

≪良かった点≫
・難しいテーマを扱ったが、真剣に調べたり考えたりした。日常の中で意識しない問題に気づいた。
・生徒同士で議論ができ、考えをしっかり持つ生徒が増えた。
・人の意見を聞く姿勢が大きく成長した。特に、相手の意見を尊重できるようになった。
≪反省点≫
・後半は、実施回数が少なくまとまった活動ができなかった。
・生徒主体の活動を増やすべきだった。

③ 2年STEPゼミ　Economic（経済的分野）

【意義・ねらい】

経済と一口にいっても、経済政策や企業行動、金融政策や株・為替などその対象は様々である。SPにつながる経済の知識を身につけさせるとともに、グローバルリーダーとしての資質や実際の進路選択にもつながる活動を考えた。その手段として、日本政策金融公庫が主催している高校生ビジネスプラン・グランプリを用いた。高校生ビジネスプラン・グランプリは、文字通り高校生を中心としたビジネスプラン作成のコンテストであるが、その規模は高校生対象のビジネスプラン・グランプリとしては最大のものである。社会的ニーズと現実の社会のギャップを埋めるためのビジネスプランを考えることを通して、社会的な問題に幅広く関心を持ってもらうとともに、実際に行動を起こすことの出来る人材を育てることができると考えた。

【授業の流れ】

7回目	作成したビジネスプランの振り返り
8回目	日本政策金融公庫の担当者さまから、作成したビジネスプランへの講評をいただいた

【取り組みの成果】

本年度の高校生ビジネスプラン・グランプリの応募総数3808件であった。本校からは5チームが出場した。結果については、1チームが「高校生ビジネスプラン・ベスト100」に選出され、ビジネスプラン発表会&表彰式において表彰を受けた。加えて、1チームが惜しくもベスト100には選ばれなかったものの優秀なビジネスプランだと認められ、南近畿地区での「プラン・セッション」で表彰を受けた。

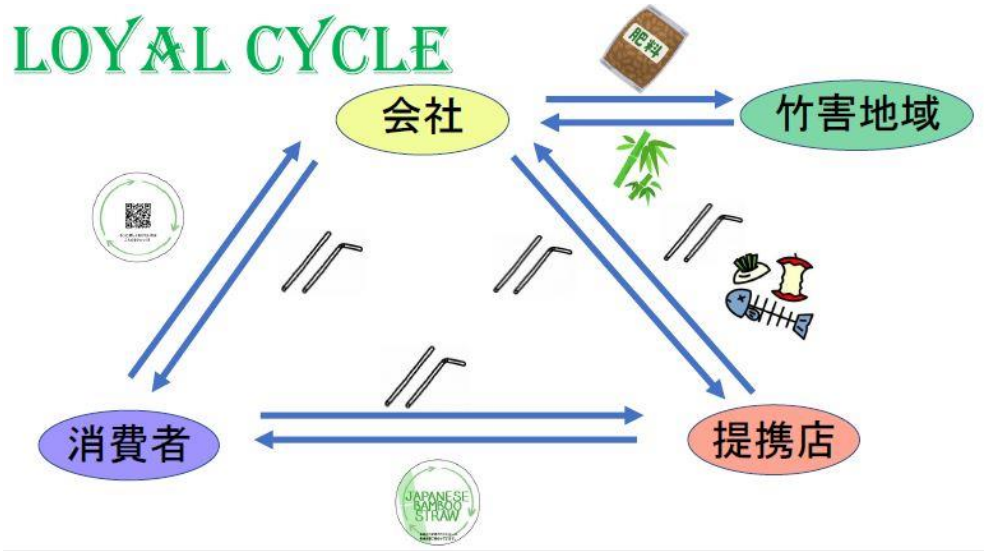
選出された2チームは、ビジネスプラン作成にあたって非常に熱心に取り組んでいた。高評価につながったと思われる点は以下の通りである。

・自分たちのビジネスプランについて、企業や大学を訪問したりインタビューを行ったりすることで、その妥当性を客観的な視点から確認したこと。
・自分たちのビジネスプランの社会的な必要性を客観的なデータに基づいて裏付けたこと。
・自分たちのビジネスプランに熱意と誇りを持っていたこと。

ビジネスプランの作成を通して、生徒達は社会的な問題に関心を寄せるだけでなく、自分たちの手によって社会的な問題を解決することが出来るという実感を得ることができたと思う。そのような経験を通して、自ら行動を起こすことの大切さを学び、社会に出て行く際に、身近な問題を「他人事」としてではなく、「自分事」として捉え、問題解決のために自ら動くことのできる人材に成長する一助になったのであれば幸いである。

【プラン発表会&表彰式の様子】

【作成したビジネスプラン「LOYAL CYCLE」の概要】



【講評】

≪良かった点≫

・一年を通してエコノミックで取り組むことを、ビジネスプラン・グランプリに絞ったため、一回一回の活動の中身が濃い活動を行うことができた。

・生徒同士でプランについて話し合うことで自分の意見を持つことの大切さに気付いた生徒が増えた。

・自分の意見を持つだけでなく、相手の意見をきちんと受け入れ、自分の考えの至らない点を素直に受け入れ、改善点を考えることができるようになった。

≪反省点≫

・提出間際になり、課題を完成させようとすることがあった。

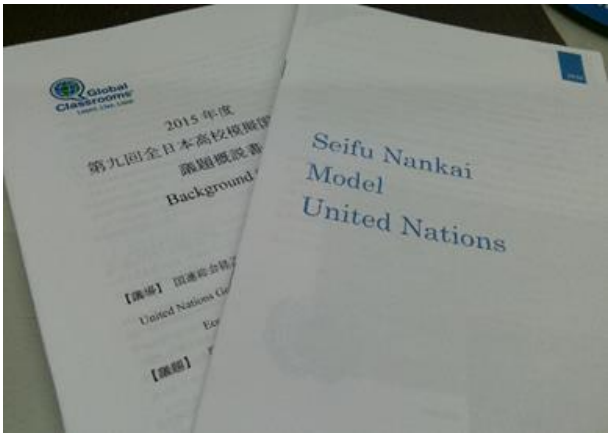
・後半は、エコノミック独自の活動を行うことができなかった。

④ 2年 STEP ゼミ　Political（政治学的分野）

【意義・ねらい】

模擬国連では自らの担当する国の課題を探り出し、解決のための決議案を考える。そしてそれが決議となるよう、他の国から理解が得られるよう説明し、折衝する。この取り組みを通して生徒たちは、政治とは「最大多数の最大幸福」を実現するものであると実感し、自国だけの利益にとらわれていてはいけないということに気づくはずである。この自己にとらわれず多様性を認める姿勢こそ、生徒たちが政治を学ぶことを通じて身につけるべきものである。

具体的には①担当国を決定、②担当国の政治・経済、課題等の調査、③発表準備・練習、④担当国代表として討論、⑤決議案の作成、⑥公式討議にて決議案について討論、⑦修正案の作成、⑧決議案について投票という流れで展開する。



本年の前半は「国際移住」をテーマとし、第1回会議を開催した。後半は、「死刑モラトリアム」をテーマとした。第2回会議を行うことによって、他国への関心、課題発見・解決能力に加え、専門知識の取得（法令等の読解）、プレゼンテーション能力や表現力、交渉力などを養うことをねらいとした。

【授業の流れ】

6回目	担当国決定 第2回会議議題（死刑モラトリアム）発表 Position Paper(基礎情報)作成 Policy Paper 作成
7回目	Position Paper(基礎情報)作成 Policy Paper 作成 スピーチ順を決定 スピーチ・公式討議・非公式討議
8回目	スピーチ・非公式討議 決議案の作成 公式討議 修正案の作成 投票

【生徒作品・成果物】

・決議案の一例

① 死刑制度廃止に対する最大限の努力する。
   a) 殺人の最高刑としてのみ残すことに努力する。
   b) 宗教的な側面は考慮する。
   c) 裁判において性別や人種、宗教による差別を含まない、公正なる判決を前提とする。
② 死刑モラトリアムに関する正しい知識を国民に周知徹底する。

【生徒の感想】

・ゼミ内での模擬国連では、生徒一人一人に担当国が振り当てられるため、自分の役割に責任をもって活動することができます。また、それぞれが積極的に自国の立場や意見を主張し、活発に議論を行うことで、生徒が主体となって会議を作り上げていくことができ楽しいです。

・限られた授業数の中、普段の授業では得られない国際感覚を模擬国連を通して学べることは自分の世界への興味関心を広げるあたって非常に大きな刺激をもらっています。

・議題は、現実に世界で課題とされていることや国連で話し合われていることなので決して簡単ではありませんが、今後の社会を背負う私たち一人一人がしっかり考えなければならないのだと思いながら取り組んでいます。また、会議では一国の大使として意見を述べるので、議題に関してこれまで考えたことなかった立場から考えることができ、以前より多角的に物事を捉えられるようになったと感じます。

【講評】

≪良かった点≫

・今会議は、第 9 回全日本高校模擬国連大会で使用された議題解説書を用い、国連会議を模擬した。全員が解説書を熟読して、論点を把握し会議に臨むことができていた。

・授業での取り組みをきっかけに、学校外で行われている模擬国連大会に出場する生徒が出てきた。

生徒が参加した主な模擬国連大会	主催者	開催月
第 12 回全日本高校模擬国連大会	グローバルクラスルーム	11 月
西大和模擬国連大会	西大和学園高校	12 月
東大寺模擬国連大会	東大寺学園高校	2 月

⑤ シナリオ・プランニング（SP）

【意義・ねらい】

シナリオ・プランニング(以下 SP)の手法を学び、この SP を用いて、課題解決学習につなげていく。この活動では SP はあくまでも手段であって、SP を学ぶことを目的としていない。課題解決学習の方法は様々あるが、ビジネス手法を応用する例は少ないであろう。SP は未来のことを考え、それに対応する方法を考えるための手法である。グローバルリーダーの資質として、現状の課題解決のみならず、将来のことを見据えて物事を考え、行動できることが求められる。これらの活動を通して、課題設定力・論理的思考力・資料分析能力・批判的思考力などを養うことを目的としている。そのため、今年度はシナリオを作成する「主体者」を明確にし、シナリオに対する対応策や戦略も考えさせている。

【授業の流れ】

19 回目	国際シンポジウム反省会
20～25 回目	卒論作成（班共通部分作成）
26～28 回目	卒論作成（個人論述部分作成）
29～30 回目	卒論作成　手直し
31～32 回目	卒論作成　英語要約
33～35 回目	中間発表会準備

【生徒の様子】

【生徒の感想】

・とにかく軸を設定することが難しく、一度これでいけるかなと決まっても不確実性が高くなかったり、互いに干渉する軸をとってしまっていたりと、なかなか軸が決まらなくて苦労しました。今回の SP でも何日も何日も考えて先生と何度も話をしてもらってようやく決まったので決まった時の安心感がすごかったです。ああでもないこうでもないと話に話し合ったこの軸決めで僕はすごく成長したと思います。この SP が完成したらきっとものすごい達成感が得られると思うのでこのまま気を抜か最後まで頑張りたいです。

・初めの方は SP の仕方がわからず苦労したし、今はそれが少しわかった所で、SP 自体の難しさに苦労しています。今はその苦労を楽しみながら過ごすことができるようになりました。

・あっさり決まる事が無いとは思っていましたが、何を決める時もぶつかる事が多くて途中何度も投げ出したくなりました。リーダーのような役割を負うつもりは無かったのですが、やっている内「いつやる？」や「この意見はどう思う？」と、言い出すことが多くなって、自然と話し合いを進める位置になるようになりました。私自身、そういう位置はあまりやって来なかったので、言い方がよくなかったりしたし、纏め方も全然わからなくて寧ろ混乱させてしまったかもしれません。でも、そういう面を経験できた事は成長に繋がるし、沢山の事を考えさせられました。

・SP で一番苦戦したのはトピック決めでした。初めはトピックがもっと簡単に決まって軸や象限のシナリオ決めに時間がさけると思っていましたが、そうはいきませんでした。 そして発表で苦戦したのは時間内にどれだけ端的に言いたいことを述べられるかです。もっといい言い方がないかを考えて台本を書くのはとても勉強になりました。

・まず初めに感じたことは本当に難しいということです。SP に間違いも正解もないとは聞いていましたが、本当にその通りだと身をもって感じました。そのかわりに決めたテーマに対しては詳しくなった気がします。また SP は未来を見る能力を求められますが、この能力はこれからの自分の人生設計図を作るときにも重要だと思うので、そういう能力を今のうちから鍛えておけるのはいい機会だなと思いました。社会人になってからも SP は必要なので、やっておいてよかったなと思います。

【講評】

《良かった点》

・いろいろな先生方と相談しながら進めるように指導したので、疑問点の解決や方向性の修正がスムーズに行えた。また、情報の収集や分析に積極的に取り組むことができた。

・卒業論文作成にあたって、目標を具体的に設定し、提出締め切りを細かく設定した。例えば、班共通部分→個人論述パートの計画書作成→個人パートの作成→最終版提出、といった流れで行った。これにより、提出が遅れる班は一つもなく順調に進めることができた。

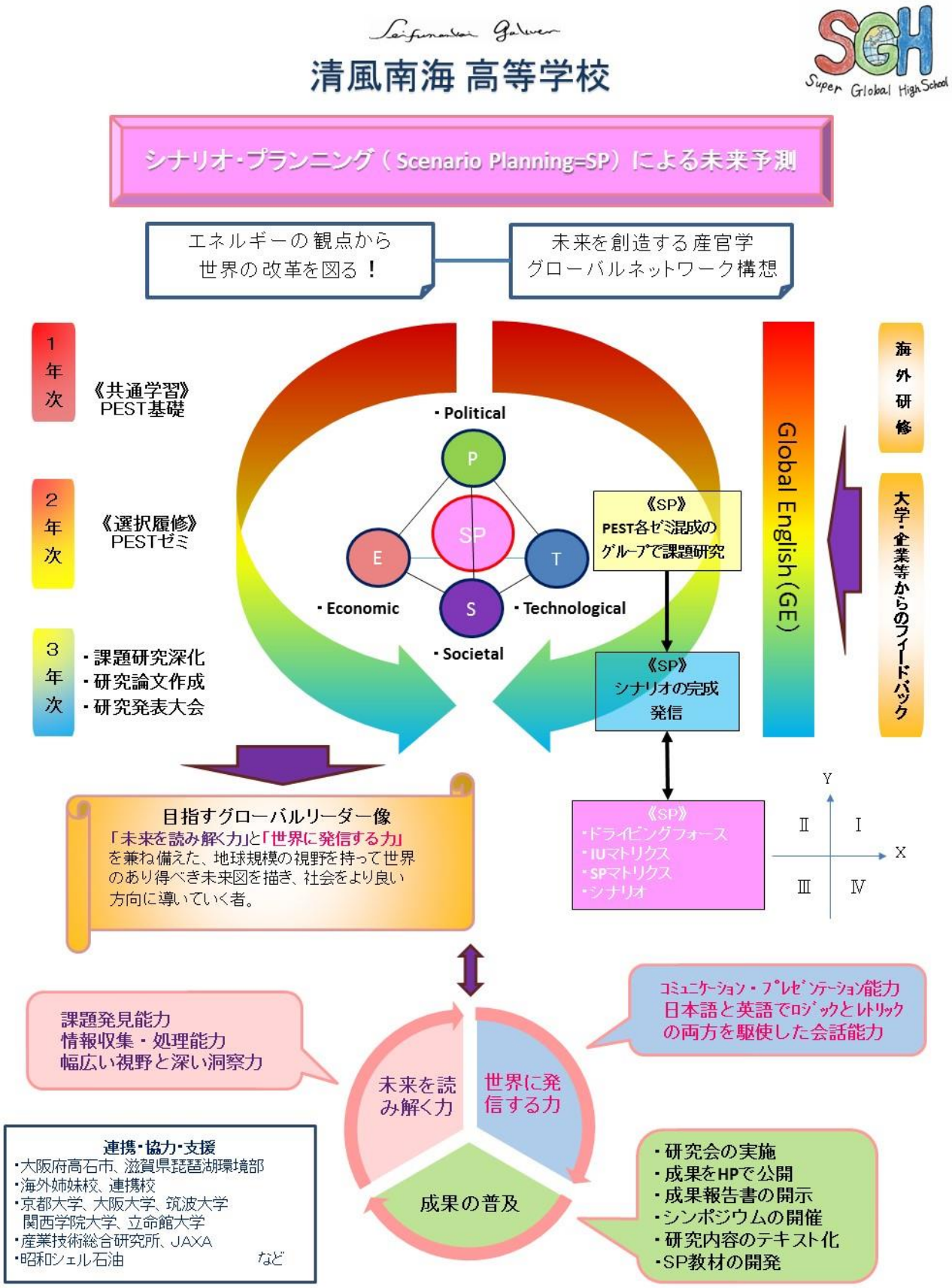
・生徒自身で決めた班で SP を進めてきた。班決めの段階で苦労もしたと思うが、最終的には生徒全員が責任を持って取り組むことができた。その結果として、生徒は大きな成長を遂げた。

《反省点》

・議論すればするほど新しい意見や考え方が出てくる班があった。前向きな取り組みなので良いことだが、軸の取り直しから始めるなどかなりの時間がかかった。

・やはり時間が少ない。限られた時間の中でできることとそうでないことを分けて進めていかなければならなかった。

◇SP 概念図


Seifunnankai Gakuen
清風南海 高等学校
SGH Super Global High School
シナリオ・プランニング（Scenario Planning=SP）による未来予測
エネルギーの観点から
世界の改革を図る！
未来を創造する産官学
グローバルネットワーク構想
1年次
《共通学習》
PEST基礎
2年次
《選択履修》
PESTゼミ
3年次
・課題研究深化
・研究論文作成
・研究発表大会
・Political
P
SP
E
T
S
・Economic
・Technological
・Societal
《SP》
PEST各ゼミ混成の
グループで課題研究
《SP》
シナリオの完成
発信
Global English（GE）
海外研修
大学・企業等からのフィードバック
目指すグローバルリーダー像
「未来を読み解く力」と「世界に発信する力」
を兼ね備えた、地球規模の視野を持って世界
のあり得べき未来図を描き、社会をより良い
方向に導いていく者。
《SP》
・ドライビングフォース
・IUマトリクス
・SPマトリクス
・シナリオ
Y
X
Ⅱ
Ⅰ
Ⅲ
Ⅳ
課題発見能力
情報収集・処理能力
幅広い視野と深い洞察力
コミュニケーション・プレゼンテーション能力
日本語と英語でロジックとレトリック
の両方を駆使した会話能力
未来を読
み解く力
世界に発
信する力
成果の普及
・研究会の実施
・成果をHPで公開
・成果報告書の開示
・シンポジウムの開催
・研究内容のテキスト化
・SP教材の開発
連携・協力・支援
・大阪府高石市、滋賀県琵琶湖環境部
・海外姉妹校、連携校
・京都大学、大阪大学、筑波大学
関西学院大学、立命館大学
・産業技術総合研究所、JAXA
・昭和シェル石油
など

⑥その他

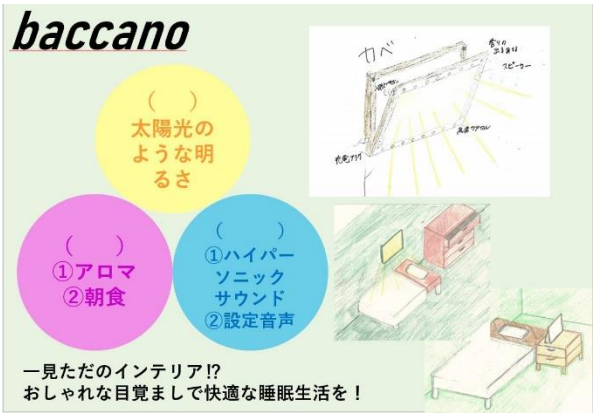
ここは講演会・特別授業・その他のページです。各先生あれば追加してください。なければ〇を打つだけです。

１．SGH 甲子園（全国スーパーグローバルハイスクール課題研究発表会）	
平成 31 年 3 月 23 日(土)	高２生（当時） ４名、課題研究プレゼンテーション発表（口頭発表） 高１生（当時） ５名　課題研究ポスター発表 で出場予定です。

ポスター発表の部

２．キャリア甲子園 2019	
2 月 16 日	本校から 14 チームが参加し、7 チームが東京で行われた準決勝に参加しました。

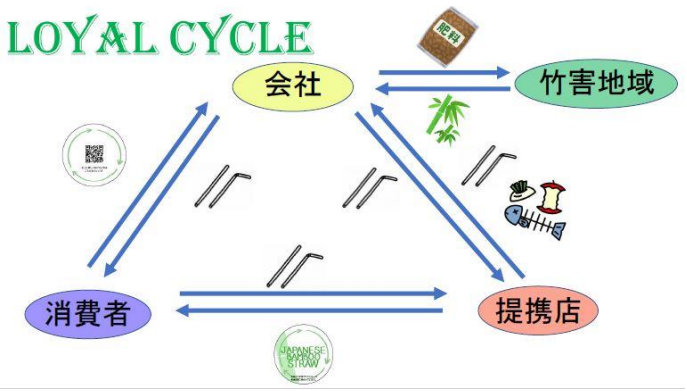
（写真は後日追加します）



３．2019 年度スーパーグローバルハイスクール全国高校生フォーラム	
12 月 21 日(土)	本校の代表として、１チーム（高校２年生）が SP の発表をしました。

４．第 7 回 高校生ビジネスプラン・グランプリ	
12 月 26 日(火) 2 月 2 日	本校から 5 チーム（高 2 生）がビジネスグランプリに出場しました。その中から 1 チームがベスト 100 に選出され、1 チームが大阪府内の出場チームとのプレゼン発表会に招待頂き参加しました

ビジネスアイデアの概要と授業風景



Ⅲ　今後の事業展開について

１．国内外のフィールドワーク（3 月）

今年度は、1 年生全員と 2 年生の希望者が以下の予定でフィールドワークに参ります。

No.	行先	日程	内容
1	産総研・ 東工大・ アクセンチュア コース	3/18 （水） ～ 3/21 （土）	新大阪出発→新横浜到着 東京工業大学訪問
			産業総合研究所訪問
			未来科学館訪問・テーマ別研修
			株式会社アクセンチュア訪問 東京出発→新大阪到着
2	フィリピン （マニラ）	3/15 （日） ～ 3/20 （金）	関空発→マニラ国際空港着
			Colegio de San Juan de Letran 訪問（終日）
			スモーキーマウンテン見学 ＧＫ財団訪問
			Colegio de San Juan de Letran 訪問（終日）
			Letran の学生とフィールドワーク（マニラ市内）
			マニラ国際空港発→関空着

〈昨年度の様子〉

No.	行先	日程	内容
3	ベトナム (ﾎｰﾁﾐﾝ)	3/16 (月) ～ 3/21 (土)	関空発→ホーチミン国際空港着
			Le Hong Phong High School 訪問（終日）
			Marie Curie High School 訪問（終日） Marie Curie の学生とグループ別フィールドワーク（ホーチミン市内）
			現地企業訪問（AAB）
			社会見学
			ホーチミン空港発→関空着
4	ﾏﾚｰｼｱ (ｼﾞｮﾎｰﾙﾊﾞﾙ) ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ	3/11 (水) ～ 3/16 (月)	関空発→チャンギ国際空港着
			St. Joseph's Institution 訪問（終日） 日本旅行社長講話
			現地企業訪問 現地大学生とフィールドワーク ジョホールバル（マレーシア）へ移動
			マレーシア工科大学訪問 カンポン（マレーの伝統的な村）滞在体験
			マレーシア工科大学訪問 シンガポールへ移動 ナイトサファリ
			チャンギ国際空港発→関空着

〈昨年度の様子〉

２．事業展開　－３年間の流れ－

《1 年生》

	月	STEP		その他
第一年次	4	STEP 基礎	GE	講演会 特別授業 FW
	5			
	6			
	7,8	FW･中間発表準備		
	9	**第１回中間発表会**		
	10	STEP 基礎	GE	講演会 特別授業 FW
	11			
	12			
	1	中間発表準備		
	2	**第２回中間発表会**		
	3	**国内･海外 FW**		

《2 年生》

		STEP		その他
第二年次	4	STEP 基礎	GE	講演会 特別授業 FW
	5			
	6			
	7,8			
	9	国際ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ準備		
	10	**国際シンポジウム**		
	11	STEP 基礎	GE	講演会 特別授業
	12			
	1	中間発表準備		
	2	**中間発表会**		
	3	**国内･海外 FW**		

		STEP		その他
第二年次	4	STEP ｾﾞﾐ SP	GE	講演会 特別授業 FW
	5			
	6			
	7,8			
	9	国際ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ準備		
	10	**国際シンポジウム**		
	11	STEP ｾﾞﾐ SP	GE	講演会 特別授業
	12			
	1	中間発表準備		
	2	**中間発表会**		
	3	**国内･海外 FW**		

コメント

「国際シンポジウム」は、生徒にとって 3 年間の活動のちょうど真ん中に位置する。本校 SGH 活動の主目的である SP の完成を目指して、日々新しい取り組みを続けている。

《3 年生》

		STEP		その他
第三年次	4	STEP 基礎	GE	講演会 特別授業 FW
	5			
	6			
	7,8			
	9	国際ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ準備		
	10			
	11	**国際シンポジウム**		
	12	STEP 基礎	GE	講演会等
	1	中間発表準備		
	2	**中間発表会**		
	3	**国内･海外 FW**		

		STEP		その他
第三年次	4	STEP ｾﾞﾐ SP	GE	講演会 特別授業 FW
	5			
	6			
	7,8			
	9	国際ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ準備		
	10			
	11	**国際シンポジウム**		
	12	SP 等	GE	特別授業
	1	中間発表準備		
	2	**中間発表会**		
	3	**国内･海外 FW**		

	SP		その他
第三年次	SP	GE	講演会 特別授業
	課題研究発表準備		
	課題研究発表		
	論文作成･発表		

３．運営指導委員一覧・連携先一覧

① 運営指導委員一覧（敬称略）

小谷　泰造	株式会社インターグループ取締役会長
佐野　慶子	高石市教育委員会教育委員
中村　松市	株式会社パイン キャピタル（シンガポール）グループ代表
横山　直樹	富士通研究所名誉フェロー

② 連携先一覧

京都大学，大阪大学，東京工業大学，関西学院大学，立命館大学
昭和シェル石油，アクセンチュア
大阪府高石市，滋賀県琵琶湖環境部
産業技術総合研究所（AIST），宇宙航空研究開発機構（JAXA），理化学研究所(RIKEN)
Brisbane Grammar School (Australia) Choate Rosemary Hall (the U.S.A.) Colegio de San Juan de Letran (the Philippines) Le Hong Phong High School (Vietnam) Marie Curie High School (Vietnam) St. Joseph's Institution (Singapore) Universiti Teknologi Malaysia (Malaysia)

【MEMO】

清風南海学園　中学校・高等学校

Tel　072-261-7761
Fax　072-265-1762
http://www.seifunankai.ac.jp/